

## ◇鈴木正洋君

○議長（澁谷俊二君） 次に、3番、鈴木正洋君の一般質問を許可いたします。鈴木正洋君、登壇願います。

（3番 鈴木正洋君 登壇）

○3番（鈴木正洋君） 通告に従いまして、一般質問をいたします。質問事項は、今後の湧太郎のあり方についてです。名水市場湧太郎の今後の利活用について伺います。この11月末に、湧太郎から土産販売店「ゆうちゃんの郷」が撤退しました。1階フロアの小売テナントスペースでは、クラフト工房の「アクアフローラ」と障害者支援施設が運営する「ゆうゆう屋」の2店が営業を続けていますが、もはや買い物を楽しむといった雰囲気はなく、寂しい空気が漂っています。撤退の理由は、「店員を確保できなかったから」と言われておりますが、利益を出すことが難しかったのだらうと推測されます。一昨年3月末にも、今は「ゆうゆう屋」が営業している区画において、それまで営業を続けてきた土産店が撤退をしています。一般的に、小売業の粗利率は3割と言われており、飲食業やサービス業よりも利益を出しにくい業種ではありますが、六郷地区の観光と文化の拠点と位置づけられる湧太郎において、小売店が壊滅状態に陥り、人が閑散としている状況はさすがに大きな問題であると言えます。ことし3月に策定された「公共施設等の管理運営に関する最適化構想」の中で、商工会の事務所機能を湧太郎に移す方針が示されました。ですが、私はこの方策は「妙手」とは言えないように思っております。理由は、「場が違うから」です。普通であれば、土日祝日が一番にぎわうはずの商業施設に、土日祝日に使われない事務所を置くということは、間接的に商売の邪魔をすることになります。ショッピングモールが半分しか営業していない様子を想像してみてください。そのような寂しい空間からは自然と客足が遠のいてしまいます。公共施設の利用率を高めるのは大事なことです。その施設の位置づけに合った使い方ではなくてはいけません。湧太郎が六郷地区の観光と文化の拠点として、また、コミュニティーの中心に位置する複合的商業施設として今後もあり続けるのなら、商工会を入れてよしとするのではなく、それよりも先に施設全体の魅力アップを考えるべきではないでしょうか。まずは、小売テナントスペースへのアクセスをよくする「ワンフロア化」の改修工事を急ぐべきだと思います。道の駅雁の里せんなん、横手市にある秋田ふるさと村などの観光施設は、入り口の自動ドアを通過して中に入ると、小売スペースから情報案内コーナー、飲食コーナーまでが一つながりとなった空間、いわゆるワンフロア、遮るものがない空間となっています。今の湧太郎はワンフロアになっておらず、ガラスの引き戸をあけなければ小売テナントスペースや観光情報センターに入れないうつくりとなっています。入りやすく出やすい店でなければ、並んでいる商品を手にとっ

てもらふことはできません。また、ハード面よりも大切なのは、「おもしろそう、見てみたい」と思わせるコンテンツです。ネット販売や郊外大型店で購入できるような商品は、湧太郎に並べてもほかと勝負になりません。道の駅が人気なのは、農産物などそこでしか手に入らない商品が並んでいるからです。湧太郎には、農産物の直売を行っている「湧子ちゃん」とのすみ分けを意識し、ハンドメイド作家たちが手づくりした作品を並べる「クラフト市場」を開設してはどうでしょうか。手づくり作品を展示販売するイベントが全国各地で人気を博しています。秋田ふるさと村で開催された「アート&クラフトフェア」には、100人以上のハンドメイド作家が出店し、3日間で8,000人を超える集客がありました。県外にある道の駅には、クラフト作品のコーナーを設置している店もあります。美郷町内にも、陶芸やレザー、漆芸などのハンドメイド作家がいます。観光情報センターでは、地元作家のハンドメイド作品を既に販売しています。県南全域にまで範囲を広げれば、もっと多くの作家の作品を集めることも可能だと思います。ハンドメイド作家は趣味や副業として手づくりを楽しんでいる人が大半で、テナントを借りて出店することは難しい状況にあります。そのため、「クラフト市場」の開設に当たっては、あきた美郷づくり株式会社が委託販売を引き受けることになると考えられます。クラフト作家からは、都合のよい土日祝日などに、手づくり体験イベントを開催してもらうようにすれば、集客のプラスになると考えられます。さらに、魅力アップのコンテンツとして強力な支援を期待できるのが「油谷コレクション」です。油谷コレクションとは、秋田市在住の油谷満夫さんが、60年以上にわたってこつこつと集めてきた明治・大正・昭和の生活雑貨の収蔵品のことです。全部で50万点以上あると言われており、そのうち約20万点は秋田市に寄贈され、廃校となった金足東小学校に「昭和の駄菓子屋」などを再現したディスプレイがされています。ことし9月、湧太郎のホールで「龍角散のふるさと秋田健康を支えた家庭薬展」が開催されたことは、松田町長もご存知のことと思います。その際に並べられた展示品およそ1,000点が油谷コレクションです。油谷コレクションは秋田市中心部にある秋田市民市場や東海林太郎音楽館などにも貸し出し展示され、懐かしいレトロな雰囲気をめぐる散歩コースづくりに一役買っています。私は実際に油谷満夫さんと会い、そのコレクションの一部を確認させてもらいました。映画のポスター、レコード、古書、人形、玩具などなど、挙げれば切りがありませんが、「ない物はない」と言える膨大なコレクションです。収蔵品をテーマごとに分類すれば、博物館を幾つもつくることができます。油谷さんは「昭和の雰囲気を残す六郷中心部に展示して、観光に役立ててほしい」と話されていました。湧太郎の一部スペースに油谷コレクションの展示コーナーをつくることは、新しい魅力の一つになると考えられます。ちなみに、9月の「家庭薬展」には、5日間で284人が足を運んでいます。金足にある油谷コレクショ

ンの入場者数は年間で約2,000人だそうです。また、天井まで高い湧太郎の空間を生かすことを考えれば、ボルダリングジムを設置することも思い浮かびます。これから人気が高まることは確実であり、モンベルと連携協定を結ぶ美郷町にぴったりの設備であると考えられます。冬の間、体を動かして遊ぶ機会の少ない雪国の子供たちにも喜んでもらえるものと思います。その他、市民作家が美術作品を展示できるギャラリー・コーナーを開設するなど、人が足を運んでみたいと思う施設にする方法は幾つもあると考えられます。「湧太郎はいつも何か文化祭のような楽しいことをやっている場所だ」と地域内外の人々から認知してもらえるようになれば、にぎわいが途切れることはなくなると思います。ここまでの話で、「魅力のアップ、にぎわいの創出はわかった。しかしそれでは湧太郎はもうからない。テナント収入も減ってしまう」という感想を抱かれたのではないかと思います。まさしくそのとおりです。しかし私は、湧太郎は地域の入り口であって、観光の戦略的赤字施設であるべき」と考えております。楽しみにあふれ、お金が余りかからない空間だからこそ、人々が集まります。利益は湧太郎の内部、あきた美郷づくり株式会社だけで独占せず、地域全体でプールして捉えることが重要だと思います。もともと店がなかったような場所に農産物直売所をつくった道の駅などとは、そもそもの発想が違います。「湧太郎栄えて地域滅ぶ」とならないように、湧太郎と六郷地区の商店街がともに繁栄していく公益的な振興策が求められています。そのためにも、先ほど案として挙げた油谷コレクションをうまく活用してミニ博物館を町中につくり、昭和の雰囲気が残る町として六郷地区をブランド化するプランは、将来に向けて検討すべきだと考えています。いずれにしても、「商工会を入れてよし」とするのではなく、「湧太郎に行ってみよう」と思わせるような新しい魅力を創出し発信することが大事なことはないでしょうか。今後の湧太郎のあり方と利活用について、松田町長はどのように考えているのかお聞かせください。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

ご質問いただきました今後の湧太郎のあり方についてですが、湧太郎については、町民が集い交流する場としての役割、町の観光拠点施設としての役割の、大きく2つの役割があると認識しております。前者については、一般の公共施設とは少し設置目的が異なりますが、小売店や飲食店などのテナントのほか、國之誉ホール、会議室等を利用した「にぎわい創出」やコミュニティー機能、その他各種イベントの開催などにより、町民の皆様が集える場所を提供することで、その設置目的を果たしているものと認識しております。また、後者については、観光客の受け入れや

町の魅力発信などを行うことにより地域の活性化を図り、それが町民の皆様は何らかの形で波及しているものと認識しております。ご質問ありましたとおり、このたび11月末をもって名水市場湧太郎のテナント1店が閉店いたしました。町なかの観光拠点として位置づけられる湧太郎において、人が閑散としている状況は、議員おっしゃるとおり寂しいものであり、町としても早急に空きテナントを解消するために、指定管理者である「あきた美郷づくり株式会社」とともに対策について検討を行ってきております。先ほど申し上げました湧太郎の設置目的の一つである「にぎわいの創出」を図り、さらには湧太郎の施設機能の効果を発揮できる活用方法はないものかと検討した結果、町としましては、手づくり工房湧子ちゃんの機能を一部移転させるとともに、地域住民や観光客等にとって魅力的な商品を取り扱う物販機能の充実を図ることが必要ではないかとの結論に至っております。具体的には、現在手づくり工房湧子ちゃんで行っている特産品販売等の機能をこの空きスペースに一部移転するとともに、あわせて土産品販売機能も拡充し、湧太郎の施設機能として一つの柱となる物販機能を充実することで、観光客等に対して美郷町を印象づけるようにしてまいりたいと考えております。町で行っている平成30年1月から12月の観光客入り込み数調査によりますと、手づくり工房湧子ちゃんの年間入り込み数は2万5,497人であり、湧太郎については5万598人と約2倍の差があります。この数字から見てとれるとおり、湧太郎の有効活用によりこれまで以上の地域経済への刺激、観光客等の誘客効果が見込まれるものと考えておりますし、あわせて町なかエリアのにぎわいにも寄与していくものと考えております。議員よりご提案のありました湧太郎のさらなる魅力アップのためのハード整備についてですが、現状テナントが入居している状況においては、ワンフロア化に着手することは難しいものと認識しております。今後、抜本的な施設機能の改修や見直しがあるとなれば、その際に検討すべき提案と存じますので、ご理解をお願いいたします。また、魅力あるコンテンツのご提案ですが、國之譽ホールを活用したさまざまな企画に、それは議員ご提案の内容も含めてですけれども、今後もお使いいただくようにPRに努めてまいりたいと存じます。さらに、現在の水文館については、ほぼ設置以来の内容及び形状ですので、今後について検討する時期に来ているように思います。議員のさまざまな内容のご提案は、そうした検討を行う際の参考として受けとめたいと存じます。いずれ、地域が栄えて湧太郎も栄えるという形になるよう、町なかエリアの中心施設として、湧太郎の魅力アップを図るとともに、交流及びにぎわい創出の場として、今後の利活用の検討を重ねてまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）3番、鈴木正洋君の再質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） お答えをいただきました。もう一つお聞きしたいのは、湧太郎に商工会が移転してくるといってお話がありました。この件についてはどうなったのでしょうか。先ほども申し上げましたが、公共施設の有効活用という観点是非常に大事な事かと思えますけれども、やはり商業施設には商業施設としての使い方があるべきだと思います。水文館のほうと申しますか、余り目立たない、蔵の横にあるほうに、例えば商工会が入るのであればいいのかもしれませんが、例えば目立つような、人が集う入り口近くのスペースのほうに商工会が入ってくるとなると、これは商業施設にとってマイナスになるのではないかなと思いますので、この商工会の移転についてはどのようにお考えなのかということについてお伺いします。あと、湧太郎という施設全体について、地域の全体的なあり方を含めて考えるマネジャーというのはいるかどうか。ちょっとその点についても説明をお願いしたいと思います。イオンとかのショッピングセンターの場合は、そのショッピングモール全体をどうしていこうかということを考えるマネジャーという立場、管理者がいるはずで、テナントとして何でもかんでも希望があったものを入れればいいというわけではありませんで、例えばこのショッピングモールには眼鏡屋さん、洋服屋さん、靴屋さん、本屋さん、パン屋さん、こういうものが必須だと業種をあらかじめ全体で挙げていまして、例えばパン屋さん1つが欠けたとすれば、それにかわるテナントの出店を求めて交渉に当たると。そういう全体的な視点でもって調整を行う、出店交渉などを行うマネジャーというものがあるはずで、商店街のほうも、昔TMOと、六郷まちづくり株式会社もTMOだったわけですが、このまちづくり会社というものにこういう全体的なマネジメントの視点が必要だということで、イオンなどのショッピングモールが行っているような全体の調整を行う管理者というものを設けよう。町全体で最適になるようなことを考えて行動しようという考えがあったかと思えますけれども、湧太郎に入っている商店、出店者を見た場合、飲食店が2つ、あと2階のほうにはサービス業なども入っていますけれども、この商業施設にはこういう業種が必要だという全体的な視点でもって考えて、何か出店者を選ぶようなことをされているのか。そういうマネジャーがいるものなのかどうか。そういう体制が確立されているのか。いないとすればまずいのではないかと申します。テナント収入で稼ぐ考え方か、直営店舗で稼ぐ考え方かというのとも申しますけれども、例えば湧太郎のテナントの場合は、水曜日に行きますと皆さん閉まっています。さらに、そのテナントで3つ入っている小売店の中で、1つはさらに土曜、日曜も休んでいます。一角が非常に暗いスペースになっているわけですので、だから湧太郎全体として見た場合、テナントが休んでいるという状況はマイナスじゃないかと。そういうことがあってはいけないよということで、施設のマネジャー、全体的な管理運営を行う人が定休日

はとらないでくださいですか、例えば24時間営業は無理にしても、毎日営業するようにしてくださいというふうな指導を行うべきではないのかなと。そういう全体的な視点で見るマネジャーがいないと、これもまた問題ではないのかなと思います。そういう全体的な視点で見る管理体制ができ上がっているのか。この点についてもお伺いしたいと思います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

中央行政センターの今後の取り扱いに伴うものとして、これまで何回となく議員の皆様と情報を共有した上で現在の方向になっていることに、改めてご認識をお願いいたします。その上でですが、あくまでも町として強制をしているわけではなくて、商工会が主体的に考え、どうするかということが基本でありますので、現在町では商工会の検討を待っているという状況であります。

それから、マネジャーの話については、現在町有施設になっております。以前は第三セクターの所有施設でありました。したがって、以前の第三セクターの所有施設のときの話は置いておいて現在の話をさせてもらおうと、マネジャー機能というのは当然あるわけですし、町が担当している、町の所有施設として担当している課と指定管理を受けている会社が、いわばマネジャー役を果たしているということです。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再々質問ありますか。（「はい」の声あり）3番、鈴木正洋君の再々質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） それで、先ほども少し触れましたけれども、テナント収入で稼ぐ考え方が、直営店舗で稼ぐ考え方がというのがあると思いますが、そのテナントで入っているお店が水曜日、まずみんな休んでいると。あと、さらに土日に至っては、そのテナントのうちの一つが休んでいると。そういう非常に暗いスペースになっているわけですね。そういうところに観光客が足を運んだとすると、何だこの施設はということでがっかりしてしまうわけです。だから、あきた美郷づくり株式会社としては、そういうテナントさんに指導を行うとか、何かそういう全体のことを考えた指導が必要ではないのかなと私は思います。あと、あきた美郷づくり株式会社も、もっとイベント運営の自主事業の開催をしてもいいのではないかと、私はそのように思います。今の湧太郎、蔵のホールの利用度合いを見ると、利用者数、利用度合いは増えてきているように思いますけれども、ただ、ほとんどが町行政関係の会合でありますとか、あと町民のボランティアとしての活動によるイベントの開催。そういった蔵の利用が中心ではないかと思えます。昔は地域ににぎわいをつくるということで、六郷まちづくり株式会社も、例えば戦隊ヒーローショーですとか、あとは落語会など、そういう客を呼ぶような事業も自主開催していたように思います。そういっ

た事業も、新しく統合して観光と物産振興に力を入れていくというあきた美郷づくり株式会社であれば、そういう自主事業も自主イベント開催も行っていくべきではないのかなと、私はそのように思いますが、町長、お考えをお聞かせください。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） 再々質問にお答えいたします。

議員の再々質問の内容については、指定管理者については、その指定管理者が機能しているかどうかという話ですので、一般質問の場で町長の立場でお答えすべき内容ではないと存じますので、答弁を控えます。

○議長（澁谷俊二君） これで、3番、鈴木正洋君の一般質問を終わります。